

経営比較分析表

東京都 八丈町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.11	100.00	2,500

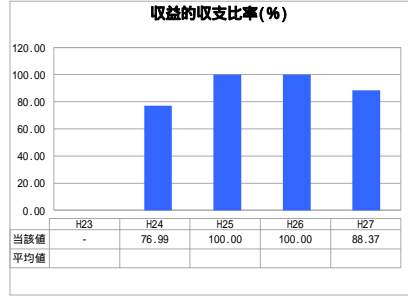
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,834	72.23	108.46
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
391	69.09	5.66

グラフ凡例

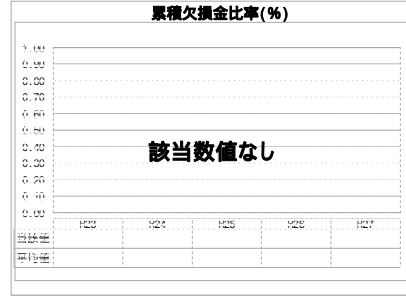
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成27年度全国平均

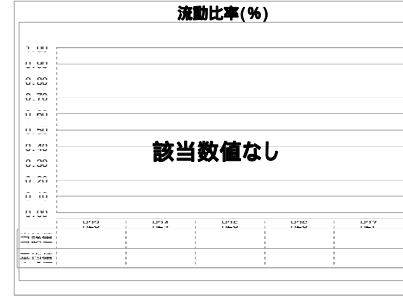
1. 経営の健全性・効率性



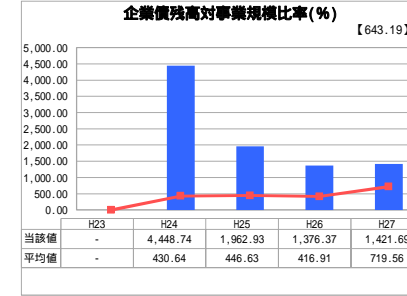
「単年度の収支」



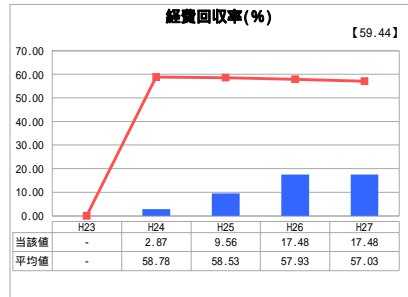
「累積欠損」



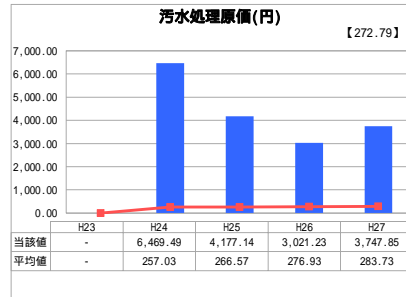
「支払能力」



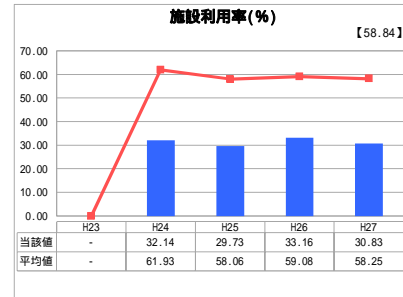
「債務残高」



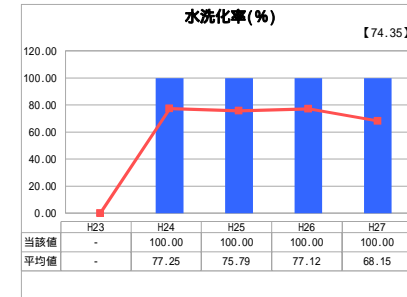
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

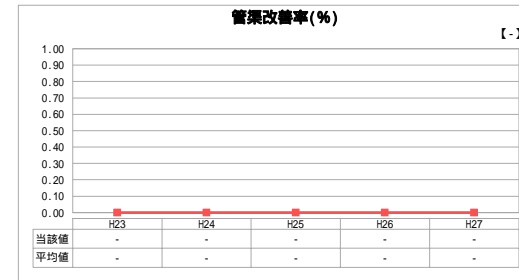
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成26年度において、一般会計からの繰入金が多分だったために27年度に一般会計へ繰出金が生じ、収益的収支比率が11.63%減少となった。

企業債残高対事業規模比率については、事業開始年度より減少傾向にあるものの類似団体と比較し2倍程度となっている。事業経営を考慮すると個人負担金の増額が必要であるが、増額をすると浄化槽転換への個人負担額が増額し、浄化槽整備の鈍化も懸念される。

経費回収率は前年度と同様20%を下回っており、使用料の改定時期等の検討が必要である。

高齢者のみの世帯など汚泥の処理量が極端に少ないケースが見受けられる。水道使用量が少量のためと推測でき、汚水処理原価は上がり、施設利用率は下がると思われる。

今後も適切な規格の浄化槽設置に努めていく。

2. 老朽化の状況について

平成24年度から開始された事業であり、現状では老朽化は見られない。

全体総括

現在、八丈町において新築物件には合併処理浄化槽の設置が必須であり、今後も設置浄化槽は増加傾向にあると推測できる。

現状では老朽化は見られないものの、設置年度がまとまっているため、将来的に改修時期が重なり、費用が高くなることも推測される。

老朽化を見据えた事業運用の検討が必要である。

法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均値を表示していません。
平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。